

# 春日山原始林保全再生事業の進捗

保全方針	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31/R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	達成目標・期間
(1) 照葉樹林の良好な状態の維持 (植生保護柵の設置)		○5箇所の植生保護柵を設置 (合計約0.26 ha)	○7箇所の植生保護柵を設置 (合計約0.68 ha)	○20箇所の植生保護柵を設置 (合計約1.60 ha)	○4箇所に植生保護柵を設置 (合計約0.24 ha)		○保護柵のあり方の再検討	○新規植生保護柵設置箇所の検討	○「花山1-と-3」植生保護柵実施設計	○「花山1-と-3」植生保護柵設置 (約0.34 ha、総延長約236 m)	○「更新区1-は-1」植生保護柵実施設計 (約0.24 ha、総延長約203 m)	○新規植生保護柵設置 (予定)	○新規植生保護柵設置 (予定)	●春日山原始林保全計画 (H27年度策定) 「植生保護柵の設置による保全面積の拡充」 計画策定から15年 (～令和13年)  ●年間0.25 haの植生保護柵の設置 (令和13年時点 合計約6.0 ha)  ※積極的に保全方針を実施する区域…春日山原始林約222.4 haの内、約23 ha (全体の約10.2%、面積はメッシュ分析に準拠した値) ※令和4年度時点の植生保護柵設置面積…合計約3.3 ha
(2) 照葉樹林の多様性の維持 (植生保護柵による後継樹、下層植生等の保全)	○後継樹、下層植生等の生育環境調査の実施								○モニタリング調査結果の検証 (H25設置)	○モニタリング調査結果の検証 (H26設置)	○モニタリング調査結果の検証 (H27設置)	○新規・継続モニタリング調査の実施	○新規・継続モニタリング調査の実施	●春日山原始林保全計画 「多様な植生の保全と種多様性の維持」 計画策定から15年 (～令和13年)  ・平成25年～28年設置植生保護柵モニタリング調査 (5年間) の完了、効果検証 (令和3年)
(3) 後継樹の育成による文化財としての価値の修復				○後継樹種子の試験的な種子採取、播種、苗木の育成	○後継樹種子の試験的な種子採取、播種、苗木の育成	○後継樹種子の試験的な種子採取、播種、苗木の育成	○実施計画に基づく後継樹種子採取、播種、苗木の育成	○実施計画に基づく後継樹種子採取、播種、苗木の育成	○実施計画に基づく後継樹種子採取、播種 (800個)、苗木の育成	○実施計画に基づく後継樹種子採取、播種 (1,457個)、苗木の育成	○実施計画に基づく後継樹種子採取、播種 (841個)、苗木の育成 (3種10本)	○実施計画に基づく後継樹種子採取、播種、苗木の育成	○実施計画に基づく後継樹種子採取、播種、苗木の育成	●春日山原始林保全計画 「育苗方法の確立、修復植栽方法の検証と後継樹育苗の本格展開」 平成30年から30年間 (～令和30年)  ・後継樹育成実施計画 (平成29年度策定) における5ヶ年の修復植栽実証実験の実施スケジュールの完了…令和4年
(4) 外来種ナンキンハゼの侵入の抑制			○外来種侵入状況調査の実施		○ナンキンハゼ駆除マニュアル (案) の作成				○ナンキンハゼ生育状況調査 (12.5 ha)	○ナンキンハゼ生育状況調査 (15.0 ha) + 成木駆除の実証実験 (11本)	○ナンキンハゼ成木駆除の実証実験 (24本)	○ナンキンハゼ成木駆除の実証実験 (10本、予定)	○ナンキンハゼ成木駆除の実証実験 (70本、予定)	●春日山原始林保全計画 「ナンキンハゼの駆除と駆除方法の確立」 着手から5年 (令和2年～令和7年)
(5) 常緑針葉樹ナギの拡大の抑制			○ナギ数量調整の試行実験	○ナギ拡大状況把握調査 ○「春日山原始林における常緑針葉樹ナギの本格的な数量調整方法 (案)」の作成						○学識者へのヒアリングの実施 ○数量調整実施方針の決定、実施範囲の現状把握	○ナギ数量調整実施計画の作成 ○植生保護柵実施設計	○ナギ数量調整の実施 (実証実験)	○ナギ数量調整の実施 (実証実験)	●春日山原始林保全計画 「ナギ数量調整に係る実証実験の実施」 着手から5年 (令和4年～令和9年)  ※ナギの密生区域…約9 ha
(6) ナラ枯れの拡大の抑制	○緊急を要する保全事業の実施 (ビニールによる被覆等)		○緊急を要する保全事業の実施 (ビニールによる被覆等)											●春日山原始林保全計画 「ナラ枯れ対策の検証とナラ枯れ後の森林更新・遷移に係る保全方針の検討」 着手から10年 (平成30年～令和9年)  ・薬剤樹幹注入2回目の終了 Bゾーン…令和5年 Cゾーン…令和6年
(7) 花山・芳山地区人工林の保全・利活用	○人工林に関する基礎調査の実施	○楡皮採取 1.06 ha、266本 (642.6 kg)	○楡皮採取 0.24 ha、160本 (704.3 kg)	○楡皮採取 0.24 ha、152本 (556.0 kg)	○楡皮採取 0.83 ha、300本 (757.5 kg)		○楡皮採取 1.68 ha、365本 (902.5 kg)	○楡皮採取 0.91 ha、163本 (347.8 kg)	○楡皮採取 1.09 ha、68本 (136.0 kg)	○楡皮採取 0.45 ha、38本 (159.0 kg)	○楡皮採取 0.15 ha、35本 (137.0 kg)	○楡皮採取 (予定) 2.25 ha	○楡皮採取 (予定) 2.25 ha	●春日山原始林保全計画 「森林資源の利活用と方法の検討」 計画策定から15年 (～令和13年)  ・花山・芳山地区人工林における荒皮採取の終了…令和5年 (予定) ・各エリアにおける黒皮の採取、県下の文化財への活用
(8) 保全事業を円滑に実施し得る仕組みづくり			○春日山原始林を未来へつなぐ会設立											●春日山原始林保全計画 「関係機関・人材の連携・協働による人やシカとの共生を可能とする森林保全方針の実施」
(9) 多様な主体の参画														「保全事業の担い手の育成、保全事業の充実と継続」
(10) 春日山原始林に関する基礎情報のマネジメント														「調査結果など保全に係る基礎情報の一元化、データベースの作成、情報の発信」
委員会・部会等の開催														